

■ 曲目のご案内

2019年2月以来、コロナ禍のため見送られていた「せたがや名曲コンサート」が、4年ぶりに復活します。まずお聴きいただくのは、57歳のワーグナーが、1870年、妻コジマの誕生日のお祝いに、密かに準備したサプライズプレゼント「ジークフリート牧歌」。前の年に息子ジークフリートを産んでくれたことへの感謝の気持ちが込められた穏やかな作品です。そして、メインプロ

グラムは、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」です。自分を世に出してくれた恩人シューマンの死を機に作曲に取り掛かったものの、思うように筆が進まず、最愛の母親を亡くした3年後の1868年にやっと全曲を完成させました。ラテン語の歌詞によるレクイエムと違って、ルター訳のドイツ語の聖書から歌詞を選んでいるのが特徴です。このときブラームスは35歳。作曲家としてのブラームスの評価を決定づけた重要な作品です。

■ 黒岩英臣(くろいわ ひでおみ) 指揮

1942年東京生まれ。1960年桐朋学園大学指揮科に入学し、故斎藤秀雄氏に師事。1964年、同大学弦楽オーケストラのアメリカ公演に指揮者として同行。1965年同大学卒業後に修士となり、1975年まで修道生活を送った。その間、神学、哲学、ラテン語、グレゴリオ聖歌、ポリフォニーを学び、典礼音楽の指揮、作曲を行った。1976年より再び音楽に専念し、1977年東京都交響楽団ファミリーコンサートを指揮し、「久方ぶりに現れた、優れた資質をしかと感じさせる新人」と絶賛され、一躍脚光を浴びた。以来、全国の主要オーケストラに数多く出演し、安定した評

価を得ている。自らが敬虔なキリスト教徒ということから、宗教音楽に造詣が深く、情熱的な音楽創りが評価されており、オラトリオ、レクイエム、ミサ曲等での名演を重ねている。1981年から1988年まで九州交響楽団常任指揮者、1985年から1989年まで神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、1988年から1994年まで関西フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者を務めた。2001年より山形交響楽団常任指揮者を務め、2004年同団名誉指揮者に就任、現在に至る。1978年より2016年まで桐朋学園大学にて教鞭を執り、多くの著名な指揮者を育て上げた。

■ 世田谷フィルハーモニー管弦楽団

世田谷フィルハーモニー管弦楽団は、作曲家、故芥川也寸志氏の「世田谷区民によるアマチュアオーケストラを」という呼びかけに応じて、1989年3月、さまざまな職業の音楽愛好家によって結成された。世田谷区の厚い支援を受け、毎年2回の定期演奏会を開催するほか、プッチーニ「ラ・ボエーム」、チャイコフスキー

「くるみ割り人形」など、オペラやバレエにも挑んでいる。近年採り上げた主な曲目は以下の通り。チャイコフスキー「交響曲第5番」、サン＝サーンス「交響曲第3番《オルガン付き》」、モーツァルト「交響曲第41番《ジュピター》」、ドヴォルザーク「交響曲第8番」、バルトーク「管弦楽のための協奏曲」、ブラームス「ヴァイオリン協奏曲」。

■ 世田谷区民合唱団

世田谷区民合唱団は、故芥川也寸志先生の提唱で音楽監督に坂本博士氏を迎えて1989年に設立された、団員120余名の世田谷区で最も大規模な混声合唱団。団員は区内に在住、在勤、在学する合唱愛好者で、「定期演奏会」、世田谷フィルハーモニー管弦楽団との「せたがや名曲コンサート」をはじめ区内外の演奏会に

参加している。クラシックの大曲から、日本の混声合唱曲、ポピュラー曲まで演目は多岐にわたる。地域の福祉施設での活動も広く親しまれている。創立5年毎の節目には、世田谷区の海外姉妹都市との国際親善を目的にした海外演奏旅行を行っている。コロナ禍の活動休止後、2022年10月に第30回定期演奏会を開催、好評を博した。

新型コロナウイルス感染防止のため、ご協力をお願いします。

- 家を出る前に検温をお願いします。
37℃以上の場合は、来場をご遠慮ください。
- 会場内ではマスクを常に着用し、会話は最小限に留めてください。
- 会場内での出演者との面会をご遠慮ください。
また花束や贈り物は辞退いたします。
- ご声援は、声を出さずに拍手でお願いいたします。

人見記念講堂のご案内

- 東急田園都市線 三軒茶屋駅 南口A出口 徒歩7分
- 東急世田谷線 三軒茶屋駅 徒歩10分
- 東急バス/小田急バス 昭和女子大 徒歩1分

人見記念講堂の駐車場は、お身体のご不自由な方以外にご利用いただけません。ご了承ください。



ホームページ <https://hall.swu.ac.jp>

